

## 内視鏡トレーニングセンター開設

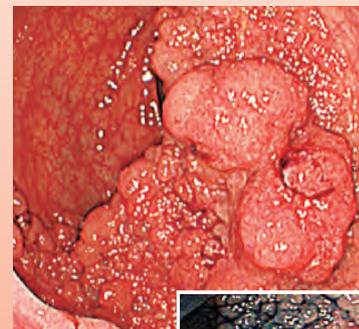
学生・研修医・若手医師に最新機器で訓練



## ニーズ増え専門医の養成が急務



指導スタッフ(内視鏡診療科)



早期大腸がん



# 新年のご挨拶

病院長 木内 良明



## 社会の要求に応じ 変化・発展を

新年あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で大きな変化に見舞われた1年でした。それでも世界もわれわれの暮らしも続いていきます。年の境目には、カレンダー、手帳、日記帳を新たに更新し、それをきっかけとして行く年を振り返り、新年の決意を固めることでしょうか。昨年の大学病院の取り組みを振り返り、来年に向けての課題を考えました。

2020年11月に行われた広島大学ホームカミングデーでは青山学院大学教授の福岡伸一先生に講演いただきました。生物は毎日同じ形と機能を維持している。しかし、形態を維持している細胞は日々新たに置き換わっている。なくなっていく物質や細胞は新たに加わる物質や細胞に置き代わる。止まっているようで実はその構成成分はどんどん置き変わっている。これを動的平衡と呼んでおられました。動的平衡を保っているのは生物だけでなく、大学や会社の組織も同じであると感じました。学生や教員、職員は年々入れ替わっていますが広島大学や広島大学病院はそのまま残っています。会社組織もそうでしょう。生物の場合、動的平衡を保っていてもやがて、年とともに衰えて最後には死んでしまいます。破壊と修復のプログラムが年と共に乱れるからと考えました。会社の場合も同様で、同じものを扱い、作り続けても商品に寿命がありますのでいつかは衰えてきます。イノベーションを起こして新たな物づくり、商品づくりを行うことで会社を存続させます。ジェネラルエレクトリック社は冷蔵庫などの白物家電製品の会社でしたが、現在はジェットエンジンやMRI、CTを扱う会社になっています。キャノンはかつてカメラの専門メーカーでしたが、印刷、メディカル、産業機器を扱う会社となっています。広島大学病院放射線診断科はキャノンの関連会社と共同でCTやMRIの改

良に取り組んでいます。

100年後も光り輝く広島大学であるために、広島大学や大学病院に新たな機能を付け加える、同時に組織を削る、もしくは効率化する必要があります。昨年度はアレルギー疾患医療拠点病院に認定されてアレルギーセンターを設立しました。遺伝子診療科には特任教授をお迎えし、がんゲノム医療の機能を充実させるとともにがんゲノム医療拠点病院に指定されました。遺伝にかかわる診療には認定遺伝カウンセラーの存在が欠かせませんが、認定されたカウンセラーは全国的に不足しています。2021年4月から認定遺伝カウンセラーを養成する大学院が霞キャンパス内に設立される予定です。増え続ける外国人患者の診療支援を行う国際医療支援部を立ち上げて体制を整えました。Japan International Hospitalsに申請を行い2020年12月には推奨病院としての訪問調査を受けました。研究力のアップも大切です。優れた臨床研究を行うと同時に研究で生まれたシーズを発展させて産業化することが求められています。広島臨床研究開発支援センターにも特任教授をお迎えして、時代が求める質の高い研究を支援する組織を構築中です。2021年4月には漢方診療センターにも新たな教員を迎えること、研究科にも新たな寄附講座が設立されることが決まっており、研究力や診療レベルの向上が期待できます。教育の面でも卒後研修のあり方を考え直し、よりよい研修内容を提供できるように改革を始めました。

大学病院に対して社会から要求される事項もどんどん高度に変化していきます。広島大学病院は今のままの形で動的平衡を保つのではなく、大きく変化、発展する必要があります。来年の新年のご挨拶には良い報告ができるように励みたいと思います。

## 広島大学病院に開設 内視鏡トレーニングセンター

# 地域の内視鏡診療向上へ

医学部学生や研修医、若手医師らに内視鏡操作技術のスキルアップを図ってもらうための内視鏡トレーニングセンターが広島大学病院内に設置され、運用が始まりました。現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大勢を集めての研修などは控えています。状況が好転すれば本格的な研修などをスタートさせます。内視鏡は健康診断などの際に体内に入れる機器で、先端に小型カメラ(高画素CCD)を備えた細長いスコープを口、肛門などから挿入し、食道、胃・十二指腸や小腸・大腸を内部から観察します。診断はもちろん、組織検体を採取したり、ポリープや早期がんの切除もできます。

### 田中信治 内視鏡トレーニングセンター長(内視鏡診療科長) あいさつ



本院の内視鏡診療科の診療実績は、診療件数・診療内容ともに全国トップレベルです。技術的難易度の高い大腸粘膜下層剥離術件数は全国トップテンに入っています(週間朝日MOOK「手術数でわかるいい病院2018」)。当科では、毎年、全国規模の消化管内視鏡ライブセミナーや消化管内視鏡治療ハンズオンセミナーを開催しています。内視鏡トレーニングセンターが設置されたことで、学生や研修医の日々の内視鏡診療体験・研修、また、高度な手技取得を目指す内視鏡医の卒後教育に大いに役立つことが期待されます。ひいては、地域の内視鏡診療レベルの向上に貢献できると考えています。

## 最新機器や模型で実践的な研修

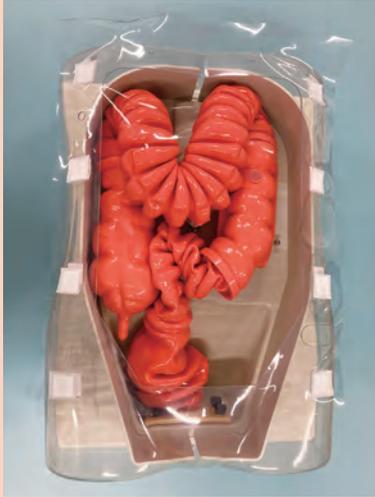
内視鏡トレーニングセンターは臨床管理棟1階の内視鏡診療科医局近くに開設されました。さらに、電子内視鏡システム2セット、上部消化管および大腸内視鏡、吸引器、高周波電源装置、コンピューター内視鏡シミュレーター、上部消化管・大腸のゴム模型を備えています。直接の患者相手



内視鏡システムとコンピューターシミュレーター

手でないため、学生や研修医が自由に使うことができ、消化器内視鏡に触れたことのない初学者の研修にも適しています。ゴムの模型では内視鏡の操作方法を学べ、コンピューター内視鏡シミュレーターでは操作や診断のみならず内視鏡治療も経験できます。

さらに、電子内視鏡システムを用いた動物の切除臓器(胃・大腸など)による内視鏡的粘膜切除術や



大腸の模型(ゴム製)

内視鏡的粘膜下層剥離術を生体内に近い状態で体験することができ、ハンズオンとして内視鏡治療初心者の技術習得に有用です。内視鏡治療は侵襲的な技術で偶発症も起こりうるため、初学者は生体内ではなく動物の切除臓器によるハンズオンが技術習得に重要となっています。

センターは、学生実習(ポリクリ)、初期研修医・後期研修医のみならず、内視鏡医の卒後教育にも使えるようになっており、ベテランの専門医らが講師として、具体的な手技について指導します。このような内視鏡訓練設備は、広島県内及び近郊には設置されておらず、当科で高度な内視鏡診療を行える内視鏡専門医を多く育成し、関連施設に派遣することで、地域全体の内視鏡診療のレベルアップにつながると期待しています。

近年、がん死亡者に占める胃、大腸がんの割合が増える傾向にあり、国立がん研究センターの報告では、2018年は大腸がん2位、胃がん3位でそれぞれ5万人近くが亡くなっています。2020年のがん罹患数予測では、大腸1位、胃2位で上位を占めています。これらの消化管がんは早期発見、早期治療で根治可能です。そのため、内視鏡による検査・治療への需要は高まっています。しかし、大腸内視鏡の挿入やがんの切除などは技術的難易度が高く、不完全な治療では消化管穿孔や出血などのリスクもあります。内視鏡専門医の育成は急務の重要な課題です。

## 検診受診率アップと 内視鏡医育成を両輪で



動物臓器を用いたハンズオンセミナー

がんの早期発見・早期治療には健康診断が欠かせませんが、広島県内でのがん検診受診率は胃がん41.3%、大腸がん41%といずれも全国平均を下回っています。県出身のデーモン閣下などをキャラクターに起用し受診率向上を呼び掛け、受診率は少しずつ上がってきていますが、50%にも届いていません。広島県としても検診の呼びかけと内視鏡医の育成を進めています。

この内視鏡トレーニングセンターは、広島県の医療施設等整備費補助金を受けて機材を購入、整備されました。当科主催の消化管内視鏡ライブセミナーや消化管内視鏡治療ハンズオンセミナーに加えて、内視鏡トレーニングセンターの開設により内視鏡医の教育・育成を強化し、さらに多くの専門医の育成に努めていきたいと考えています。

栄養管理部  
情報

# 野菜をしっかり 食べよう



担当した管理栄養士

健康増進の総合的な推進を図るための基本的方針である「健康日本21」では、一日に350g以上の野菜を摂取する事を目標としています。しかし、国民1人1日の平均的な野菜摂取量は280g程で、一番摂取量の多い70代男性でも322.9gと不足しています。(令和元年国民健康・栄養調査)。特に若い年代ほど野菜の摂取量が少なく、サプリメントや栄養補助食品で、ビタミンや食物繊維を補給している人も多いようです。

## どのくらい食べたら350gになるの？

1日に野菜料理を小鉢なら5皿分(1皿70g)食べるとよいでしょう。1食あたりにすると、小鉢なら1～2皿、野菜炒めのような中皿なら1皿です。



厚生労働省が推奨している  
一日に必要な野菜の量

**350g**

### 〈野菜350gの調理例〉

小松菜のお浸し  
(70g)



南瓜の煮物  
(70g)



野菜サラダ  
(70g)



野菜の炒め物  
(140g)



## 野菜の摂取量を増やすコツ

### ●朝に野菜を食べる習慣を！

朝は忙しいため時間をさけず、野菜がどうしても不足しがちです。「夕食で野菜を摂っているから大丈夫」と思う方もいるかもしれませんが、昼食と夕食で350gを摂るのはなかなか大変です。朝食で少しでも摂っていれば、無理なく食べる事ができます。

### ●市販のカット野菜や冷凍野菜を活用しましょう

カット野菜はそのまま盛り付けるだけで食べられるので、調理が苦手な方や忙しい方におすすめです。冷凍野菜は味噌汁や麺類にプラスする事もできますし、下茹でされているので調理時間の短縮にもなります。



### ●加熱してかさを減らす

茹でたり炒めたり、電子レンジで加熱したりする事でかさが減り、多くの量を食べやすくなります。

### ●外食中心の方

外食が中心の方は、野菜の副菜がついている定食がおすすめです。コンビニを多く利用する方はおにぎりやサンドイッチだけでなく、サラダや野菜スティックなどをプラスしましょう。





# 病院で働く人に ズームイン!

FILE 11

病院運営支援部  
医事グループ

はら しょうたろう  
**原 豪太郎 (33歳)**



## 今のお仕事を教えてください

広島大学病院に2020年9月に移ったばかりです。研修も兼ねて診療棟総合案内で患者さんの案内や、請求書を出すための準備などに携わっています。また月に一回、診療科ごとの統計資料づくりを担当しています。初診の紹介率や救急車で搬送数、ドクターヘリの出動件数など、会議などの資料として活用してもらっています。

## やりがいと抱負は

子どものころに入院し、職員の方から優しくされたことは今でも覚えています。総合案内で初めてで困っている患者さんに対応して、感謝されるとうれしいです。これから受付をはじめとしてさまざまな経験を吸収して、成長することが患者さんのためになればいいと思っています。

## 広島大学病院に勤務した経緯は

広島大学理学部で物理を学び大学院を卒業後に九州の病院に就職しました。そこで8年、医事や経理などに携わっていました。広島大学病院の職員募集を偶然目にして、親しみを感じて応募しました。



## 物理の研究と病院は畑違いなようですが

病院に入った時も専門用語が飛び交い、わからないことも多くありました。物理の世界も一緒に、理系の特殊な環境というイメージです。特に抵抗はありませんでした。難しいことをかみ砕いて説明する、というのは同じなので、それを生かせればと考えています。



## 催しのご案内

(2021年1月~3月)

### 自宅で学べる 肝臓病教室

視聴期間：2月15日(月)~3月15日(月)

開催方法：肝疾患相談室ホームページからの視聴

(講演動画配信)

URL：http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/

(「広島 肝臓病教室」で検索)

内容：肝疾患と運動

申込：不要

問い合わせ：肝疾患相談室

☎082-257-1541 (10:00~16:00)



### がん治療を支える 患者サロン

緩和ケアについて

日時：1月20日(水) 13:30~14:30

講師：緩和ケアチーム 井原 世尊 医師

開催方法：Zoomウェビナーを用いた

オンライン講義

参加費：無料

※新型コロナウイルス感染状況が拡大しているためオンラインのみで開催いたします。会場参加はありません。

申し込み・問い合わせ先

がん相談支援センター ☎082-257-1525

### 申込方法

①QRコード

申込フォームに入力の上、送信してください。



②メール

件名に「患者サロン」と明記の上、gan-sodan@hiroshima-u.ac.jp宛に空メールを送信してください。数日以内に申込フォームを送付いたします。

※上記メールアドレスは申込専用のため、お問い合わせ等に対する返信はいたしません。あらかじめご了承ください。